

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	KT	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	3	派遣国	ドイツ
派遣大学	フライブルク大学		
期 間	2024 年 10 月 14 日～ 2025 年 7 月 26 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	○	冷暖房	○(冷房は国全体で設置がない)	冷蔵庫	○
滞在費	約 (70000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(ترام) で、約 (10～15) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	8000 円	
学用品購入費	0 円	
交通費	0 円	学生はレンタル自転車が 30 分間無料なのでそれを使えます。
交際費	16000 円	
その他	0～10000 円	
合計	約 30000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

基本的に寮の周辺や街の周辺はホームレスや物乞いはいますが、昼夜問わず治安は良好です。

ただ、コロンビアパークなど、特に公園では、薬物の取引があったりと不審者も多くいるため、基本的に公園は入らない方がよさそうです。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研 災付 滞海学 / その他 ()		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	() 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	ドイツの公的保険(TK)		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	(月額約 23000) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**フライブルク**)

ドイツの南にある学生街で小さすぎず、大きすぎない街です。ユネスコのバイオスフェア保護地域に登録されている黒い森というおおきな森林があることもあり、環境に対する意識がとても高いです。基本的に市内の移動は、自転車かトラムで、自動車利用はとても少ないです。また、vegetarian の割合もとても高く、学食、カフェ、レストランどこにいてもvegan メニュー、vegetarian のメニューが豊富にあります。実際に現地でできた友人の約半数がvegetarian で、環境保護に対して強い信念を持っている人が多い印象です。

学生寮についても、大きな寮の群がいくつもあり、多くの学生はそのうちのどれかの寮に住んでいます。ほとんどの寮は同じ会社が運営しており、学校との連携もされていて毎日のように寮の施設の一部で何かしらのイベントが開催されています。(例)ビアポン、カラオケ、ダンスパーティーなど。また、特に留学生を対象としたイベントも多くあり、周辺の山を登るハイキングツアーやワインツアー、そしてドイツのその他地域を観光するようなプログラムもあり、事前にチケットを買って、友人と参加することもできます。

【学業編】

1. 大学情報

大学	フライブルク大学	所在地	ドイツ フライブルク市
最寄空港	バーゼル空港（最寄りの空港からは日本への直行便はないため、私はフランクフルト空港を使いました）	空港からの距離	Basel 空港の場合、バスや電車で1時間
空港⇄大学	（Flixbus で1時間） *移動手段		
学生数	25000 人	留学生数	400～500 人（全学生の 20 % ほど）
学部	Liberal arts and Sciences 神学部 法学部 医学部 経済・行動学部 語文学部 哲学部 数学・物理学部 化学・薬学・地球科学部 生物学部 林学・環境科学部 工学部		
	*留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	リベラルアーツ & サイエンス *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (1 0)月～(2)月

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		8:30~10:00 ドイツ語	Why? Argumentation in Theory and Practice	8:30~10:00 ドイツ語		
午後		14:00~16:00 Ideology 16:00~18:00 Environmental psychology		14:00~16:00 Ideology 16:00~18:00 Environmental psychology		

② (4)月～(7)月

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			10:00~12:00 Ethnography	12:00~14:00 The bicycle	10:00~12:00 Ethnography	
午後			14:00~16:00 Theory of culture 16:00~18:00 Studying conflict		14:00~16:00 Theory of culture 16:00~18:00 Studying conflict	

3. 履修内容

科目	Ideology		
履修期間	10月14日~2月8日	単位数	6 ECTS
授業内容／形態	課題として各講義で与えられる Reading に基づいて、議論をする。各回でテーマが大きく変わるため、ある時はマルクス主義について、ある時は動物倫理について議論した。主に、ある理論に対して、講義では professor による補足情報も踏まえて自分の意見を述べ、意見を言い合うという内容。		
成績	1.3		
YCU 振替予定	科目	現代哲学	
	単位数	2	
	担当教員	河瀬 和也	

科目	Environment psychology		
履修期間	10月14日~2月8日	単位数	6 ECTS
授業内容／形態	主に各講義でアップロードされる Reading の内容を基に、先生が講義を進行し、多くの場合、グループワークやワークショップを行い、環境保護の政策を人々の日常に浸透させるには、どのような政策が有効なのか、や実際に環境にどのように左右するのかについて学んだ。		
成績	1.7		
YCU 振替予定	科目	都市・環境政策論特攻論 1(SDGs と都市環境論)	
	単位数	2	
	担当教員	青 正澄	

科目	Cultural competence		
履修期間	1月18, 19日	単位数	2 ECTS
授業内容／形態	主に異文化交流の方法や異文化コミュニケーションの方法を、グループワークやディスカッションを交えて学んだ。さらに、ドイツの文化やその背景となる歴史的背景についても学んだ。		
成績	Pass (成績は合否のみ)		
YCU 振替予定	科目	多文化交流ゼミ (Global Communications)	
	単位数	2	

	担当教員	バカラ フレドリック
--	------	------------

科目	Ethnography		
履修期間	4月24日～7月26日	単位数	6ECTS
授業内容／形態	Anthropology をベースに、私たちの日常がどのように社会と関わっているのか、またその分析を行う際の観察技法について学んだ。実際に、美術館や市内のマーケットへ行き、観察を行い、どのようなことが読み取れるのか、どのような文化的な価値を反映しているのか、経済とどのように関わっているのかなどを議論した。さらに、毎週 Reading に加えて weekly journal を自分で作成して、特定の場所を講義で習った技法を基に継続的に観察し、最終プレゼンテーション、レポートを作製した。		
成績	1.7		
YCU 振替予定	科目	特講(国際教養留学科目 A)	
	単位数		
	担当教員		

科目	Theory of culture		
履修期間	4月26日～7月26日	単位数	6ECTS
授業内容／形態	この講義は History & Culture をメジャーにしている人向けの必須科目であったため、最大人数の20人が履修をしており、主にグループワーク、ワークショップをつうじて、課題で出される論文をどのように読み解き、理解するのかについて学んだ。		
成績	2.7		
YCU 振替予定	科目	特講(国際教養留学科目 B)	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Studying conflict		
履修期間	4月24日～7月26日	単位数	6ECtS
授業内容／形態	この講義では主に、professor の研究していたボスニアでの紛争をベースに過去の紛争やジェノサイドをどのように分析するのか、インタビューや過去の参考資料の見つけ方など、情報の集め方や分析方法について学び、最終的に自分で1つの紛争等の事例を選んだうえで、講義で習った分析法を使い分析し、最終レポートとプレゼンテーションを行った。		

成績	2.7	
YCU 振替予定	科目	特講(国際教養留学科目 C)
	単位数	2
	担当教員	

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

今回の留学を通して私が大きく学んだことは、①小さな目標を立てて取り組むことの大切さ、②自分自身のオリジナルな考えを持ち続けることの重要性、の二点です。

まず一つ目について。私は留学の前期、講義においても日常生活においても、人との会話についていくことに大変苦労しました。日本にいるときは英語の試験や検定を通してある程度自信を持っていましたが、実際に現地に行ってみると会話のスピードが想像以上に速く、必死で理解して返答しようとしてもすでに話題が変わっていることが多々ありました。振り返ると、日本で行っていた英語学習はオンライン英会話など「one to one」が中心で、常に自分のペースで会話できる環境だったため、複数人でのやり取りに慣れていなかったことが原因でした。そこで私は、自分の課題を整理し、「講義中は毎回必ず1回は発言する」といった小さな目標を設定し、毎月振り返ることを続けました。その結果、徐々に会話の流れに置いていかれることが減り、講義でも自分の意見を自然に発信できるようになりました。また、留学中に自分を見失うことを防ぐことができました。この経験から、留学先ではこれまでの自分の評価や実績にとらわれず、その場に適応する方法を柔軟に考え、小さな目標を積み重ねることが大切だと学びました。

次に二つ目として、自分のオリジナルの考えを持つことの重要性です。留学中に最も驚いたのは、年齢や学年に関係なく複数言語を話し、豊富な知識と強い信念をもっている学生が多かったことです。留学初期はそのような仲間に圧倒され、自分の意見を発することをためらう場面もありました。その際に気が付いたことが「自分なりの考えを持ち、それを言葉にして伝えることが大切だ」ということです。例えば、講義で与えられたトピックについても、単に知識を並べるのではなく「自分はどう考えるのか」という視点を意識し、日常生活での議論でも自分の意見をできるだけ相手に伝えるよう努めました。これは自分の存在感を示す上でも大きな助けとなり、また会話に主体的に関わるできるようになったことで、留学生活を生き抜くための大きな支えになりました。さらに、自分の考えを発信することで相手から新しい視点を得ることも多く、学びの循環が生まれたと感じています。

この留学生活では、講義や異なる文化的背景を持つ人々との出会いを通じて多くを学びましたが、それ以上に「刺激の多い環境で自分の気持ちを高め続ける方法」を身につけられたことが最大の成果でした。小さな目標を積み重ねる努力と、自分なりの考えを持ち発信する姿勢が、困難を乗り越え前向きに成長するための基盤になったと実感しています。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

まず言語面では、英語力のさらなる向上を目指し、特に Reading や Writing の力を強化していきたいと考えています。そのうえで、英語を活用できるボランティア活動や業務にも挑戦し、実践的な場で自分の能力を試していきたいです。また、留学中に中断してしまったドイツ語の学習も再開させ、将来的にはドイツと日本の交流に積極的に関わられるようにしたいと考えています。

さらに、今回の留学で「自分がアウェイの立場で学ぶ」という経験をしたことで、弱い立場に置かれた人の気持ちをより理解できるようになったと思います。その経験を活かし、これまでゼミ活動の一環として取り組んできた、外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援にも、今後はより積極的に関わっていききたいと考えています。加えて、これから来日する留学生のサポートにも主体的に携わり、自分が受けたサポートを今度は提供する側として貢献したいです。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

私が留学を通して強く感じたのは、①日本である程度英語ができて、留学先では必ずしも通用しないこと、②ヨーロッパ留学の場合は、ヨーロッパに関する知識を持っていると人に関わる上で大いに役立つこと、の二点です。

まず一つ目について。私は日本にいたとき、試験や英語検定を受けてある程度自信を持っていました。しかし実際に現地に行ってみると、講義でも日常生活でも会話のスピードについていけず、大きな壁を感じました。特に複数人との会話では、話題が次々に移り変わるため、理解して返答しようとした時にはもう別のトピックに移っている、ということが多くありました。振り返ると、日本での勉強はオンライン英会話など「one to one」の練習が中心で、自分のペースで会話できていたため、実際の複数人のやりとりに対応できていなかったのだと思います。この経験から、留学前に横浜市にいる留学生と積極的に交流し、複数人での会話に慣れておくことを強くおすすめします。

次に二つ目について。私が留学したフライブルクでは、学生の約 20%が留学生で、その多くはヨーロッパ各国から来ていました。そのため政治や文化の授業ではヨーロッパを題材にした内容が多く、事前知識が不足していると理解が難しいと感じました。逆に、ヨーロッパについて調べておけば授業理解が深まるだけでなく、会話のきっかけにもなり、友人関係を築くのに役立ちます。

これから留学を考えている皆さんには、語学力の強化だけでなく、現地の文化や背景についての知識も積極的に準備することをおすすめします。